

## 今日の説教のポイント<ルツ記2章21～23節>

年の初め、旧約聖書のルツ記の御言葉から聞きたいと思います。

### ①「士師記」と「サムエル記」の間に置かれた小さな書「ルツ記」

ルツ記の前の士師記には、イスラエルの民が危機に瀕した時に神様が送られた士師たちのことが記されています。ルツ記の後のサムエル記には、士師ではなく王を欲した民に神様がとうとうそれを認められたことが記されています（サムエル記上8章）。なぜこの両書の間に小さなルツ記が置かれているのだろうか、考えさせられて来ました。

ルツ記の名はこの書に出て来る異邦人女性ルツから来ています。異邦人でありながらイスラエル人ボアズの嫁となり、イエス様の系図に連なることになった女性です（マタイ福音書1章5節）。

### ②思いやりに富むボアズと、その下で働く人々の群れの姿に注目！

ルツ記2章21～23節に記された言葉から、ボアズがいかに思いやりに富む人であり、この主人の下に、思いやりに富む群れが形成されていたことが分かります。この群れだけは他の群れとは違い、異邦人の地から帰って来たナオミとルツを見下さず、主人ボアズの言いつけに従って二人を温かく見守ったからです。士師では満足できず、その後の王も民の指導者としては問題だらけだった。しかし、その事を記した士師記とサムエル記の間に置かれているルツ記に、このようなボアズとその下にある群れの姿が記されているのです！ このボアズに真の王イエス・キリストの姿が先取りされ、この方の下に生きる教会の姿が示されていると言えるのではないのでしょうか？！

### ③今の世界の希望となる教会を目指して、今年も歩もう！

世界は今、これまでの歴史になかったほどの規模で、力ある者や国がその武力や財力を用いて貧しい者や国から搾取して、益々自分の身を肥やそうとしているように思えます。かつて、イスラエルが同様の状態になった時に、神様は預言者アモスを通して、「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」、と告げられました（アモス書5章24節）。今の時代も同じです。先に召された私たちは今年も、思いやりに富みたもう神様の下にあることを覚えながら喜びの礼拝を捧げ、御言葉を今の時代に告げる教会を目指して歩みましょう！